

俳句を味わう②

金剛の 露ひとつぶや 石の上

川端茅舎

石の上にある一粒の露がまるで金剛石のように輝いている

季語 露 季節 秋 句切れ 二句切れ 切れ字 や 技法 体言止め

冬菊の まとふはおのが ひかりのみ 水原秋櫻子

冬菊は冬の日を浴びて自分で放つ光のみをまどっている。

季語 冬菊 季節 冬 句切れ なし 切れ字 なし

流れゆく 大根の葉の 早さかな 高浜虚子

冬の川に、大根の葉がすごい速さで流されていった

季語 大根 季節 冬 句切れ なし 切れ字 かな

咳をしても一人

尾崎放哉

せきをしても心配してくれる人もおらず一人で孤独だなあ

自由律俳句

季語 なし 季節 なし 句切れ なし 切れ字 なし 技法 体言止め